

■松村正恒 建築家。〈敗戦〉で八幡浜市職員となり、次々傑作、「日本の建築家十人」に選ばれ、退職し、忘れられる。

まつむらまさつね
大正政変・1913=

現在の愛媛県大洲市新谷町で、大洲藩の支藩新谷藩1万石の武家松村家に生まれる。
大きな家で裕福に育つはずのところ、祖父、姉の死去に続いて、

21ヶ条要求・1915= 2歳：小学校校長をしていた父が肺結核で死去、母からも切り離され、以後、祖母のもとで育てられる。

八幡浜条約・1919= 7歳：家の隣にあった尋常小学校に入学。

原敬首相暗殺1921= 8歳：
水平社結成・1922= 9歳：

地域の教育の場でもあった小学校で、孤児院の子の行商や失恋で自殺した教師のことに胸を痛め、

治安維持法・1925=12歳：卒業し、愛媛県立大洲中学校に入学。

校長上田光儀を尊敬し、校長が度々招いた講師のうち、法学者穂積重遠の話に強い印象を受け、

海軍軍縮条約1930=17歳：卒業。名古屋高等商業学校を受験するが、得意のはずの英語で失敗、絵も得意だったことから、

満州事変・1931=18歳：名古屋高等工業学校の建築科を受験するが、痔のために不合格となるなど、挫折の後

五一五事件・1932=19歳：創設もない無試験の武蔵高等工科大学を探しあて、建築工学科に入学。蔵田周忠をはじめ、竹内芳太郎や藤島亥治郎、今和次郎らすぐれた教師の影響を受け、引率されて完成したばかりのモダニズム建築の傑作四谷第五小学校を見学、蔵田の紹介で雑誌〔国際建築〕の翻訳に従事し始め、川喜多煉七郎の〔新建築工芸学院〕に参加してデザインを学び、東京市児童課長を訪ねてアルバイトを申し込むなど社会事業への関心も高め、日本青年館での今指導の民家模型制作に参加。

芥川直木賞始1935=22歳：卒計〔childrens' careschool〕を提出して卒業。恩師蔵田の勧めにより、土浦亀城建築設計事務所就職。
二二六事件・1936=23歳：「長谷川三郎邸」を担当し、〔新建築〕に掲載される。以後、個人邸宅設計が続く。

日中戦争始・1937=24歳：箱根の「強羅ホテル」設計にも従事。専門家らの児童問題の研究會に参加し、土浦亀城に共感と反発を感じながら、土浦の妻の父吉野作造の弟で商工官僚吉野信次が満州に出向して、その発注が急増して、

第二次大戦始1939=26歳：満州に移転後も働き続け、日本の植民地での生活も経験。〔国際建築〕の特集「新託児所建築」をまとめる。
大政翼賛會・1940=27歳：この年まで、〔国際建築〕の翻訳記事を書いた。
日米開戦・1941=28歳：帰国すると、生来の社会派の気質に加え社会主義思想への傾倒もあって、土浦事務所を辞し、農地開発営団に転職、新潟に勤務し、竹内芳太郎らの指導のもとで、日本海側の貧しい農村の住宅調査に従事。

創価学会検挙1943=30歳：この年出版された蔵田の「建築透視図」中の大部分の図面を作成、

敗戦・1945=32歳：敗戦とともに、東京の営団に戻るも、辞職して帰郷。

新憲法施行・1947=34歳：宇和島市に職を得るも続かず、新制中学校の教師の口も蹴って、厳しい生活のなか、親戚の口利きで、

極東裁判判決・1948=35歳：八幡浜市が中学校の校区を変更、以後、その校舎建築に追われる。様々な抵抗に会うも市長菊池清治に支えられ、深く敬愛して行く。助役からも信頼されて突破し、「神山公民館」に続く、「愛宕中学校」と、

三大事件・1949=36歳：*〔松蔭小学校〕は〔建築文化〕に掲載され、発表された初めての作品となる。

朝鮮戦争始・1950=37歳：「八代中学校」「川之内小学校」まで、「旧システムからの抵抗を受けてきたが、

独立回復・1951=38歳：「八幡浜市立図書館」以降、「新しい建築的ヴォキャブラリーの実験と習得をし始め、

メデー事件・1952=39歳：早くも「市立八幡浜総合病院東病棟」で噴出、

TV放送始・1953=40歳：この年出版された蔵田の「(評伝)グロピウス」でもかなり手伝う。「松柏中学校」「長谷小学校」「総合病院結核病棟」を経て、「江戸岡小学校」で両面採光の決定版と自画自賛、「総合病院伝染病棟」で飛躍の契機、

自衛隊発足・1954=41歳：八幡浜市職員ながら、隣の大大洲市からの依頼で「新谷保育所」、

55年体制始・1955=42歳：続いて*〔新谷中学校〕が〔建築文化〕に掲載されるや、のちに東大建築学科教授になる内田祥哉の目にとり、

国連加盟・1956=43歳：蔵田が妻を伴って、八幡浜市・大大洲市を訪れた際、自ら設計した諸学校を案内。

なべ底不況・1957=44歳：内田による「建築学大系32学校・体育施設」で「新谷中学校」が大きく扱われ、本格的なRC造の「神山小学校」も〔建築文化〕に掲載され注目を浴びたが、自らはコンクリートになじまず、

インストラマン・1958=45歳：グロピウスの「生活空間の創造」を蔵田が翻訳する際も手伝うなど、師弟関係が続く。3年かかりの*〔日土小学校〕は最高傑作となり、内田も来訪視察、近年地元の人たちの運動で現在修復保存建築物になった。

美智子妃・1959=46歳：「今和次郎先生古希記念文集」に「伊予の民家」を寄せるなど、尊敬し続ける。

安保闘争・1960=47歳：*明浜町の「狩谷小学校」はその工事が教員によって記録され教材にされるなど親しまれるが、「日土小学校」が〔建築年鑑〕に掲載され、〔文芸春秋〕によって、日本の建築家十人の一人に選ばれるに至った直後、「総合病院本館」「白浜小学校」を最後に、辞職し、県都松山市に松村正恒建築設計事務所を開設。

タイタイ病始・1961=48歳：以後、個人住宅のほか、多数の設計を手掛けるも、「松山聖陵高校」、

全国総合計画1962=49歳：「松山医師会看護学校」、

TV宇宙中継始1963=50歳：「日産プリンス愛媛販売」「松山城東教会」「東雲学園短期大学、

いざなぎ景気1966=53歳：恩師蔵田が死去、葬儀への出席は避けるも、深く悼む。「持田幼稚園」などを、

美濃部都知事1967=54歳：〔近代建築〕が「松村正恒建築設計事務所の作品」を特集して掲載し、

霞ヶ関ビル・1968=55歳：RC造の「大大洲市立新谷小学校」を完成して、

大阪万博・1970=57歳：〔新建築〕に掲載されたのみで、「忘れられた建築家となってしまふ。

石油ショック1973=60歳：

田中角栄逮捕1976=63歳：「城西自動車学校」、

「おそらく格好を求めるデザインへの懐疑もあつてか、建築雑誌の目にとまるようなことを避けたように見えるが、その反動のように、機会あるごとに、建築あるいは建築家が社会との間に築くべき関係について厳しい言葉や文章を発し、民家調査や様式建築の保存運動にも尽力、

中曽根内閣・1982=69歳：

ジャンボ機墜落1985=72歳：

ドイ統一・1990=77歳：

ソ連崩壊・1991=78歳：「狩谷小学校」が建替えのため校舎とのお別れ式を開催するに当たって招待され、子供たちにスピーチ、教育長から感謝状を贈られるなど、その生き方を全うして、

55年体制終・1993=80歳：現役のまま、没した。